

# 国内実態調査報告書

テーマ : 那須塩原市における持続可能な観光ビジネス・地域振興に関する実態調査  
ゼミ名 : 舟木 律子 ゼミ  
調査日 : 2023年8月28日(月)～8月30日(水)  
調査先 : 那須塩原市観光センター他  
授業科目名 : 演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅲ・Ⅳ  
参加学生数 : 13名(3年生)、7名(4年生)

## 調査の趣旨(目的)

那須塩原市は、「世界の持続可能な観光地 TOP100 選」グリーン・ディステーションズ(オランダ)という国際的な認証団体が実施する表彰制度において、直近で2年連続で選ばれた自治体である。自然資源を有効に活用しながら、持続可能な観光ビジネスを展開する同地で、その取り組みを調査する。本ゼミでは、国内の地域振興に関するテーマも扱っており、実態調査によってその具体例について学ぶ。

## 調査結果

那須塩原市は東京からのアクセスの良さと、御用邸を有する「ロイヤル」リゾートとしての特別なイメージ、温泉や豊かな自然資源を生かした高原リゾートとしての魅力により、夏休み期間ということもあり家族連れを中心に、シニア層、インバウンド等、多様な観光客で賑わっていた。同市は、景観法に定められた景観行政団体のひとつであり、「人と自然がふれあうやすらぎのまち那須塩原」を将来像として定め、自然と調和した景観を中心としたまちづくりを進めている。2015年10月には「那須塩原市屋外広告物条例」が施行され、自治体として自然と調和的な景観規制が始まり、これにより観光施設のみならず、ファミレスやコンビニ店舗、学習塾も含めて看板や店舗外装は全てこげ茶色、文字は白色で徹底されている。自然を大切にす観光地のイメージにあう景観が保たれている状況を観察できた。

同市は観光に力を入れているが、これと自然環境の保全を同時に進めることが課題となっている。持続可能な観光モデルの一例として、自然を活用した体験型レジャー施設を見学した。市内には高原の涼しい気候を利用し、「ふれあい牧場」タイプの施設が複数存在するが、中でも生物多様性、環境保全に関する取り組みを積極的に実施している那須どうぶつ王国を訪問した。同施設では、動物との触れ合い体験と、触れ合った動物たちを取り巻く環境教育の機会が提供されている。檻のない空間に動物が自由に動き回り、その中を人間が動物に気をつけながら観覧する、動物によっては触れることも可能という展示方法が各所でとられていた。一方、大型の肉食動物や絶滅危惧種に関しては厳重に管理された展示方法がとられている。絶滅危惧種については、人間からのストレスから守るため、飼育員でさえ直接触れることはない扱いの動物もあった。これらの動物については、「触れ合い」を楽しむことはできないものの、スタッフによって、絶滅危惧種に関するレクチャーを交えた餌やりタイムなどが用意されている。お話を伺ったスタッフの方からは、特にふれあい型の展示におい

て動物をストレスから守るための工夫（人数制限、時間制限、常に動物の様子を観察する、展示をシートで覆う等）や苦勞について学ぶことができた。

地域振興分野では、JR 東日本の「Happy Child Project」の一環である「エキナカこども食堂」、那須まちづくり株式会社の「那須まちづくり広場」を訪問した。こどもから高齢者まで、多様な世代の住民が、「食」を中心とした地域づくりの取り組みを進めており、地域主体、民間主導の取り組みの実態についても学ぶことができた。